

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600621		
法人名	有限会社 創		
事業所名	グループホーム ニコニコ創		
所在地	防府市上右田2458-1		
自己評価作成日	平成24年7月29日	評価結果市町受理日	平成24年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然の美しさの囲いの中にあります。見学に来られた方が口をそろえて「すごく景色がいいところですね!」と驚かれるほどです。佐波川の土手沿いは散歩コースとなっており、行き交う地域の人たちと挨拶を交わしたり、自然に咲ききれいな花を見ながらの散歩は、心と体をリフレッシュするには最適で、散歩後は「気持ちよかった!」との声が多く聞かれます。また、生活されるにおいては、ご本人、ご家族より過去の人生歴、生活歴をよくお聞きして、その方らしさを失うことなく最適な生活を送られ、日々幸せを感じられるよう、職員一同、誠心誠意努力しています。一人一人、昔から馴染みある親しみを感じられる呼び名で呼び、家族的温もりを営んでおります。また、自由意志を尊重し、時間がかかっても、できるだけ本人が達成感を味わってもらふ事を基本にしています。そして、ご家族に手紙を書いてもらい、それをみんなで共有し、家族の絆をいつも感じられるようにしています。看護学生の実習、滑舌のボランティアでの触れ合いの時間もみなさんには欠かせない大切な楽しい時間となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「自分らしく」を大切にするという理念に基づいて、入居時のアセスメントでは家族からの情報をセンター方式の「基本情報シート」「生活史シート」を活用して記録される他、日々の関わりの中での行動や表情等を生活記録に記録され、本人の話した言葉を事業者独自の「事言葉シート」に残して、思いや意向の把握に努められ、職員全員で情報を共有し、馴染みの人や場との関係継続や活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援に取り組まれています。内部研修は年間計画にそって実施し、管理者が指導される他、職員一人ひとりに添った年間プログラムを作成して、働きながら技術や知識を身につけていけるように取り組まれています。自家菜園の野菜や差し入れの野菜を利用して、三食とも事業所で利用者と職員が一緒に食事づくりをしておられ、季節の行事食、おやつ作り、お弁当を持っての外出など、食事を楽しむことのできる支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「この町でいまを生きる」という事業所理念を掲示し、内部新人研修でその説明と理解に努め、日々のミーティングの中でも共有し、その人の幸せとは何か、理念をもとに考え実践につなげるようにしている。	理念を玄関に掲示し、職員は月1回のカンファレンスで理念を基に「利用者の幸せ、その人らしさとは何か」を話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、職員は地域の掃除や新年会に参加し、地域の方々の声を聞くようにしている。また、一例として、クリスチャンの方で、教会に行けない方には、教会に出向き、神父さんに来ていただき、お祈りしてもらうなどしている。	自治会に加入し、地域の清掃活動や新年会に参加する他、近所の人と散歩時に挨拶をしたり、野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。日本舞踊や詩吟のボランティアの訪問があり、看護学校の実習生の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や民生委員さん等を通し、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。また、職員が認知症介護のプロとして身近な人たちに良きアドバイスができるよう指導している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	第3者の立場からは何を求められているのか、求められていることに関して現状はどうなのか、ということを中心に改善に取り組んでいる。	評価の意義について理解し、項目ごとに全職員で話し合い、管理者、リーダーがまとめている。事故発生時の対応について、看護師による実技講習を実施するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、自治会長、民生委員、市職員、地域包括センター職員、経営者、事業所職員のメンバーで、利用状況、事故、苦情報告や認知症の理解、地域の状況など話し合い、出された意見はサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、事故事例報告、行事報告、消防訓練、研修報告、外部評価への取り組み状況等について報告し、認知症の理解、災害時での対策について意見交換して、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や出向いての介護保険などの相談、事故報告など情報交換している。また、市から高齢相談窓口のヒントが欲しいなど市から相談があったときなども積極的に協力し関係を築いている。	市担当課に直接出向いたり、電話で事故報告やターミナルケア、介護保険の改正等について相談し、地域包括支援センターとは利用者についての相談や情報交換など、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針、マニュアルがあり、内部研修などで身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠しておらず、自由に出入りできる。徘徊ある場合も、ご本人が納得されるところまで一緒に歩くなどし対応している。	マニュアルがあり、事例報告を職員に配布し、共有して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「プラス言葉とマイナス言葉」について掲示し、スピーチロックについて指導している。日中は玄関は施錠せず、外出を察知した場合は、さりげなく声をかけたり、一緒に出かけるなど支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の目につくところに高齢者虐待の定義をはり、防止に努めている。また、毎日のミーティングにおいても、職員がストレスをためることがないように、しっかり話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに、過去に1名、成年後見人制度を利用していた利用者がおり、実践で学んだ。今現在も1名利用している方がおられ支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約前に契約書を家に持ち帰ってもらい、熟読してもらうようにしている。そして、契約の際、説明と同時に疑問点などないか確認している。解約の時も、家族と話し合いを十分にしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見等はこちらにすぐに話してもらえる関係が築かれている(契約時より何でも話していただけるようにしており、こちらも話している)。契約書にも外部機関を明示しており、契約時にこちらに話せないときは遠慮なく電話してくださいと話している。	相談、苦情の対応について研修を実施し、家族の面会時、運営推進会議時、電話等で意見や要望が言えるよう雰囲気づくりに努め、出た意見や要望は運営に反映させている。相談、苦情の窓口、担当者、外部機関、苦情処理手続きを明示し、入居時に家族に説明している。投書箱を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は密にいつも話しをしており、職員も積極的に提案してくる。当然、いいものであれば、反映させている。休日希望も毎月尋ね、職員の急な休みも他の職員の協力により柔軟に対応できるような環境にある。	日頃から意見が出しやすい雰囲気、管理者は職員の意見や提案を日常的に聞いている。レクレーション(紙芝居の制作等)の提案や業務改善、排泄支援についての提案などを運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修などの参加はもちろん、家族への手紙、ケアプラン作成など経験に応じて職員それぞれに役割をもってやってもらっている。外部研修に参加した場合、研修報告書で共有できるようにしている。	外部研修は職員の経験や段階に応じ、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命報告し、資料を閲覧できるようにしている。内部研修は年間計画にそって、研修を実施する他、日々のケアの中で管理者が指導し、働きながら技術や知識を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会が開催する勉強会、その他研修で知り合った同業者との交流、小規模多機能連絡協議会の定期的な会議、研修参加などで情報交換し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここで、よりよい生活をしてもらえるよう管理者、全職員、家族も含め努力をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話しはもちろん、利用予定者とも事前に面接をし、その方がどのような状態(進んだ認知症等)でも話しを聴き、受けとめるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設の足がかりで利用される方もいるが、それはそれで、今、そして今後を見据えて支援、対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌い、一緒に料理し、手紙を読んだり、話したり喜怒哀楽を共にしている。また、畑に何か植える時などは逆にアドバイスしてもらうなど、利用者と介護者というよりも、まず人と人として支えあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者あつての家族という事で、定期的な面会、家族が他県の時は電話、手紙で利用者を支えてもらうようにしている。また、お盆やお正月は、家族と過ごしていただけるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会訪問や神社参拝、逆に神父さんや同じ宗教の方、友人知人の面会がある。家族協力のもと、通い続けた病院への通院、外泊など、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人の来訪、馴染みの美容院の利用、自宅周辺や昔の職場周辺、馴染みの寺などへのドライブ、家族への手紙の支援をしている。家族の協力を得て結婚式、墓参り、外出に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	やはり、合う合わないあるが、それも把握し、また、利用者個々の能力、性格も把握し、孤立することなく、円滑にいくよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関わりを必要とする利用者、家族には入所時と同じように接している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりが発する言葉を大切にしている。また、基本情報、療養、支援、家族、生活史シートを活用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。常に本人本位に検討している。	センター方式の基本情報シート、生活史シートに、家族からの情報や生活歴を記録し、活用する他、日常の関わりの中で本人の話した言葉を事業所独自の「事言葉ノート」に記録し、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報や利用者の行動、表情から推し測り本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を使用し、入所前に詳しく家族に書いてもらい、また、家族から利用者へ手紙を書いてもらったり、本人からもしできるかぎり聞き出すようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの能力、性格、心身状態を管理者、全職員が把握し、それに応じた役割を与えている。自ら夕方になると草取りや水まきをされる利用者いるが、自発的なものは任せるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行い、現状の把握に努めている。また、月1回手紙で家族に現状を伝えている。カンファレンスを行う際は、家族から要望を聞き、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回カンファレンスを開催し、利用者、家族の要望、主治医、看護師の意見を参考に職員全員で話し合いをして介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、見直しは1年毎や、状況に変化が生じた場合にはその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を始め、体調の変化により報告を密にしないといけなくなれば、専用ノートを作成し、事細かに情報を共有するようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、美容院、買い物の付き添い、宗教など、本人、家族の要望に応じて柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の清古ホフンアイアでの発声練習、看護学校の実習による触れ合い、運営推進会議メンバーとの食事会、太平山へのドライブなど本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が決めた病院がある時はそちらの、当ホームのかかりつけ医の場合は、身体状況により月2回の訪問診療、通院となり、必要に応じた情報をかかりつけ医に提供し適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医療機関の他、利用者、家族が希望するかかりつけ医の受診を、家族の協力を得て、支援している。協力医療機関については、月2回の往診や緊急時の支援があり、受診結果を伝達し、共有して、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、准看護師が2名職員にいる。また、何かあればかかりつけ医に電話し、指示してもらえるようになっており、訪問看護センターにも相談に応じてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを提出し、情報交換できるようにしている。入院中も通常の見舞い、時に利用者と見舞いに行ったりして、その際に状況を把握、情報交換するようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針があり、利用開始時に家族に説明している。医療機関を選択する人には、かかりつけ医や家族と話し合い、医療機関へつなげられるよう支援している。ターミナルを希望する利用者、家族については、家族の協力、医師との連携など段階的に話し合いながら方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の向けた指針があり、入居時に医療機関への移設を含めて、事業所ができる対応について、家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族、かかりつけ医、訪問看護師、職員等で話し合い、方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書、連絡帳により、話し合いを行い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当、初期対応の訓練は看護師指導のもと定期的にを行っている。現在、定期的訓練の実施について看護師と検討中。	ヒヤリや事故が発生した場合には、ヒヤリハットや事故報告書に記録し、その日の職員で検討し、事例研修を実施し、共有して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回の救急救命講習や看護師による実技講習を実施しているが、職員全員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署への通報訓練に避難訓練、消火器訓練を毎年実施している。災害発生時は、市より連絡が入る体制となっており、利用者は優先して救出される対象として登録されている。	緊急時対応マニュアルや防災フローチャートがあり、消防署の協力を得て、年2回避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議で、地域との協力体制について検討中である。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報管理も雇用契約時に誓約書にサインしてもらっている。また、指針、マニュアルがあり、研修、勉強会を実施し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マニュアルがあり、研修を実施して、人格の尊重とプライバシーの確保について理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から話を良く聞き、自己決定できるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝含め、ひとりひとりのペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	乳液等使用する人は乳液を提供、爪を自分で切りたい人は自分で、鼻毛が気になる人には鼻毛切りを提供、好きな色のカーテンをつけるなどし、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部委託したものを利用して、三食とも事業所で、利用者と職員一緒に野菜を切る、盛り付けなどできることをやってもらっている。片付けも食器洗い、食器拭きなど適材適所で会話を楽しみながらしている。	差し入れの野菜や収穫した野菜を利用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じものを食べながら、会話や料理を楽しんでいる。季節の行事食や弁当を持ての外出、おやつ作りなどをして、食べることの楽しみの支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量の把握をはじめ、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、ひとりひとりの状態を把握し、入れ歯の人は夜間ポリドントを使用するなどし、徹底している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりに細かい排泄チェック表があり、それによりパターンを知り、誘導すべき人は誘導している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、声かけや誘導するなど、トイレでの排泄にむけた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の徹底、決まった時間の排便誘導、毎日の運動、かかりつけ医への報告連携など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日14時から16時で、職員が多い安全な時間帯に入浴をするよう支援している。毎日入りたいという人やその他希望があればそれに添う支援をしている。	入浴は確実にとなっているが、希望すれば毎日入浴できる。14時から16時の間ゆつくりと入浴できる支援をしている。本人の状態により清拭、シャワー浴、足浴等の他、入浴したくない人には、職員を交代したり、声かけの工夫やタイミングを見計るなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい人は横になって過ごされるし、お昼寝したい人はお昼寝している。その人の性格、認知症の症状等考慮して支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。また、糖尿病の利用者も数名おり、変化が見られる時にはかかりつけ医に連絡し情報提供、こちらの意見も述べ指示を仰いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人にはマイクを持たせ、毎日般若心経を唱えていた人は般若心経を、洗濯物を干したりたたんだり、畑での芋掘り、しめ縄作り、敬老会、誕生日会、ドライブなど、張り合い、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	カラオケ、短歌、切り絵、折り紙、紙芝居、新聞のゴミ箱作り、タオル体操、詩の朗読、洗濯物たたみ、芋掘り、しめ縄作り、季節ごとの行事等、活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、大平山へのドライブ、教会訪問、神社参拝、家族の協力を得ての夕食、外泊、買い物など外出の支援をしている。	一人ひとりの希望やその日の体調を見ながら、散歩、買い物、花見(桜、紫陽花など)、外庭でのティータイム、カラオケ、ペタンクの見学に出かける他、家族の協力を得て、買い物や夕食、墓参りなど戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が良いところで、季節、自然の光、風を感じることができる。自然の景色が五感に働きかけるようになっている。玄関には花を置くなどし、居心地良い空間を提供している。	玄関には季節の花や今まで事業所を訪れた人々の写真が飾っており、ソファでくつろぎながら眺めることができる。吹き抜けのある明るいリビングには、利用者の似顔絵、懐かしい歌詞、利用者がつぶやいた言葉、絵画を飾り、大きな食卓の周りに利用者、職員が集い、食事の下ごしらえや紙芝居を楽しんだり、会話を楽しんでいる。温度調節や安全面の気配りがあり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は食事の席を隣り合わせにしたり、独りが好きな人は、角席にしたり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に位牌を置かれている方、使い慣れた机、椅子を置かれている方、家族の写真を飾っている方、亡き連れ合いの写真を飾っている方などおられる。本人が安心して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、ラジカセ、位牌、衝立、机、椅子、ぬいぐるみ、鏡台など使い慣れた物や家族の写真や絵、手作りの作品など好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりで車いす移動されても、手押し車で移動されても、広々とした通路を確保し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームニコニコ創

作成日： 平成 24年 12月 12日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全ての職員が実践力を身につけるための応急 処置や初期対応の定期的な訓練の実施	訓練を定期的に行い、瞬時に対応できるよ うにする。	看護師、准看護師との話し合いをし、どんな訓 練をすべきかの抽出はできたので、具体的に いつどのように定期的に訓練する時間を設ける か決定し実践する。	1年
2	36	地域との協力体制の構築	災害時等、地域との連携がとれる環境を作 る。特にご近所との協力体制が確立される ようにする。	運営推進会議を通して自治会長さんや民生委 員さんたちと話し合いをしている。自治会も災 害対策をどうすべきか思案中ということで、協 力して何かできればとの話もでているので、こ のまま話し合いを継続し、体制が確立されるよ うにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。